

ごあいさつ

会長 副島都志子

このたび、平成 30 年度教育計画を策定いたしました。存分にご活用いただければ幸いです。

さて、看護界に限らず、日本中が、超高齢・多死社会の進展、人口減少等々に対し、様々に工夫を凝らしています。産業界では、人手不足を補うために、また多様な人材活用の観点から、女性、高齢者、障がい者等を如何に活用するかの検討が盛に行われています。AI やその結果として人間に類似するロボットの開発・導入も行われ始めました。介護界では、外国人を導入するための制度も具体的に動き出しました。そのような中で、健康を軸にした地域づくりに多大な期待を寄せられている看護職は、本当にその期待に応えられるのか、期待に応えるためには、個々の看護者、個々の施設がどのように力をつければよいのかが、問われています。3月4日付長崎新聞に『JNP(診療看護師)』に関する記事が大きく掲載され、会員の中にも波紋が広がりました。JNPは日本NP教育大学院協議会の資格で、現行制度では特定行為研修修了が必要です。一部医療機関で実際に活躍しており、新聞掲載は看護師への期待の一面ではありますが、あたかも医師不足解消がメインのような記事でした。日本看護協会(以下、日看協)ニュース2月号の「特定行為修了看護師活動レポート」を一読いただければ、看護師(新聞と同一看護師)として患者や地域の期待に応えるために研修を修了し、現在の活動も看護を根底においての実践であることが伺えます。要は、名称や状況がいかなるものであっても、研修によって培った高度な医学知識やスキルを看護師として患者の利益に応用するのか、単に医師の補助者になってしまうのかは本人や環境によるところが大きいと思います。願わくば、修了看護師(JNP含む)の全員が、根底に看護に対するゆるぎない思いをもち、その上で医学的判断力、実践力を行使してほしいと思います。そのためには、本人はもとより、病院管理者・看護管理者はじめ関係者の環境整備(看護師として力量発揮ができるよう)が不可欠です。県内に修了者(JNP含む)が増えることは喜ばしく、一日も早く県内に研修機関が開設されることを願っています。また、日看協認定看護師の方は可能な限り特定行為研修を追加受講され、施設内のみならず地域、他職種協働において更なる活躍を願っています。

本冊子は、昨年度から『教育計画』として委員会や支部の計画も一括しました。変更によりどの程度利便性が上がったのか評価はまだですが、今年度も継続します。3ページ迄には、基本方針・理念・目的等記載しています。教育計画を俯瞰したうえで、個々の項目をお目通しいただきたい。今年度計画の特徴は、JNA版(日本看護協会版)看護師のクリニカルラダーに沿った研修区分です(p.4、6-7)。ラダー普及のために、各支部に出前研修を行います。当初本土三地区の予定でしたが、理事会において離島支部長から離島での開催もとの要望があり全支部に伺います。是非、多くの方のご参加をお願いします。会員受講履歴管理は、30年度までは本協会、以降は日本看護協会キャリアナースで管理します(p.27)。皆さんの積み重ねが目に見える形になるよううまく活用してください。冊子の内容はホームページでも見ることができますし、一部ホームページからの申込も可能です。

会員、非会員を問わず協会教育事業と県看護キャリア支援センター事業(別冊)をうまく活用して、専門職としての成長、やりがいの一助にいただければ幸いです。

結びに、皆様のご健勝と限りないご発展、ご活躍を祈念いたします。